

コミュニティ・エンゲージメント



概要

基本的な考え方

ソニーがPurposeに基づいて持続的に社会価値を創出していくためには、私たちが安心して暮らせる社会や健全な地球環境があることが前提です。社会貢献活動を通じて、さまざまな社会課題を認識し、社会が抱える課題の解決に向けた社会的インパクト（社会への利益）を生み出すことに加えて、社会/コミュニティ/ステークホルダーとの信頼関係の構築、社員エンゲージメントの向上、イノベーション創出など、ソニーの企業価値向上に貢献する活動を目指します。ソニーは、「For the Next Generation」をスローガンに掲げ、世界の各地域において、さまざまな社会貢献活動を展開しています。

創業者の理念

ソニーの創業者のひとりである井深大は、設立趣意書で「国民科学知識の実際的啓蒙活動」をソニー創業の目的のひとつに位置づけ、社会に対して価値ある存在の会社になることを目指しました。戦後間もない日本において、科学技術の振興こそが社会を立て直すためには次世代を担う子どもたちの理科教育に注力することが重要と考え、会社設立から13年後の1959年に、理科教育において優れた教育を目指している小学校を支援する「ソニー小学校理科教育振興資金」を設立しました。現在も、創業者の思いを引き継ぎ、ソニーは社会貢献活動を続けています。

体制

ソニーグループ株式会社主導のグローバルプロジェクトの他、世界各国のソニーグループ各社と公益財団法人、科学ミュージアムにおいて、国際機関やNGOなどとの連携のもと、地域ニーズに応じた活動を各地で行っています。また、社員によるボランティア活動や募金活動を積極的に推進し、社会貢献活動の効果向上と社員意識の向上を図っています。

今後に向けて

グローバル課題やさまざまなコミュニティのニーズに対して、ソニーの製品・コンテンツ、テクノロジーと社員の力、さらにはステークホルダーとのパートナーシップを活用し、取り組んでいきます。

■ これまでの取り組み

- 1959年 「ソニー小学校理科教育振興資金」を開始
- 1972年 「財団法人ソニー教育振興財団」設立（現、公益財団法人ソニー教育財団）
- 1984年 「財団法人ソニー音楽芸術振興会」設立（現、公益財団法人ソニー音楽財団）
- 2018年 「感動体験プログラム」開始
- 2020年 「新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金」設立
「CurioStep with Sony (キュリオステップ)」開始
「Global Social Justice Fund」設立
- 2021年 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとのレジリエントなコミュニティづくりのパートナーシップ開始
WWFとのコーポレート・パートナーシップ開始
- 2023年 「新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金」でのUNICEF、UNHCRおよびセーブ・ザ・チルドレンとのパートナーシップ開始

[社会貢献活動](#)

[ソニーの社会貢献活動のあゆみ](#)

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

概要

重点領域・活動実績

教育支援

災害・人道支援

グローバル課題への対応

コミュニティ支援

社員の参画

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

重点領域・活動実績

重点領域

「For the Next Generation」をスローガンに掲げ、世界の各国・各地域において、ソニーの製品・コンテンツ、テクノロジー、さらには社員の力の3つのリソースを活用し、パートナーと連携して、次世代育成支援（教育）、災害・人道支援、グローバル課題への対応の3つの重点領域に対してさまざまな社会貢献活動を展開しています。

次世代育成支援（教育）においては、創業当時から思いを引き継ぎ、ソニーの強みを生かして、STEAM※の領域において活動を展開しています。世界各地で大規模な災害や緊急事態が起きた際に、ソニーは人道的観点から、事象の緊急性や地域との関係性を鑑み、支援活動を行っています。また、社会正義や人権、難民、森林保全などグローバル課題に対しては、さまざまなパートナーシップを活用し、取り組んでいます。

※ STEAM: Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (芸術・リベラルアーツ)、Mathematics (数学) の頭文字をとったもの

For the Next Generation

ソニーは、「For the Next Generation」の精神のもと、社会が抱える課題の解決に向けた社会的インパクトを生み出すことに貢献していきます。

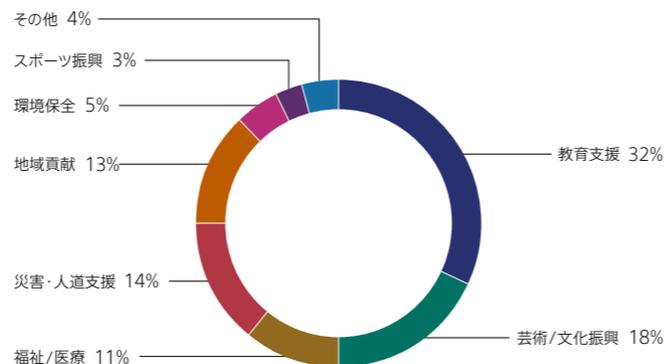
リソース	パートナー	重点領域
 製品・コンテンツ	NGO/NPO、 各種関連団体 国際機関 行政・自治体	次世代育成支援 (教育)
 テクノロジー		災害・人道支援
 社員の力		グローバル課題への対応

社会貢献活動実績

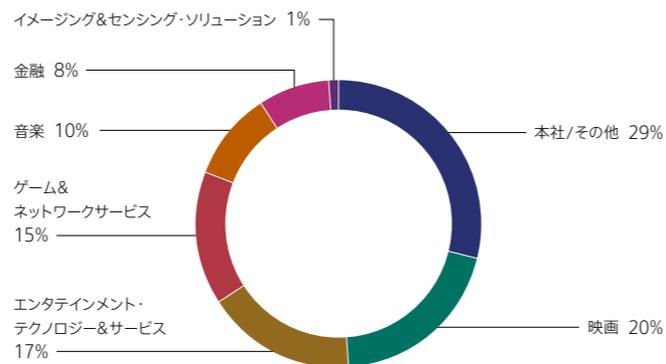
2023年度のソニーグループ全体の社会貢献活動の支出※は、総額で約47億円となりました。分野別では、教育支援が3割以上を占め、次いで、芸術/文化振興が多くなっています。セグメント別では、本社/その他の活動金額が全体の29%を占め、映画が20%、エンタテインメント・テクノロジー&サービスが17%と続きます。

※ この金額には寄付金、協賛金、自主プログラム経費（施設運用費など）の他、寄贈した製品の市場価格が含まれています。また、「新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金」と「Global Social Justice Fund」の支出を含みません。これらの2つの基金の支出については「2つのグローバル基金」をご参照ください

社会貢献活動 支出の分野別内訳 (2023年度)



社会貢献活動 支出のセグメント別内訳 (2023年度)



- Sony's Purpose & Values
- ソニーグループ行動規範
- ソニーのサステナビリティに関する基本方針
- Sony's Sustainability Vision
- At a Glance 2023
- 編集方針・事業概要
- ソニーのサステナビリティ
- マテリアリティ
- 人材
- 安全衛生
- 人権の尊重
- 責任あるAIの取り組み
- アクセシビリティ
- 品質・カスタマーサービス
- 責任あるサプライチェーン
- コミュニティ・エンゲージメント

- 概要
- 重点領域・活動実績
- 教育支援
- 災害・人道支援
- グローバル課題への対応
- コミュニティ支援
- 社員の参画

- 環境
- テクノロジーの活用
- 倫理・コンプライアンス
- コーポレート・ガバナンス
- サステナビリティ関連情報

教育支援

ソニーグループの教育プログラム「CurioStep with Sony」

ソニーグループは、あらゆる子どもたちの好奇心を広げ、創造性や問題解決力、多様性を受け入れる力の向上をサポートすることを目的とした、教育プログラム「CurioStep with Sony (キュリオステップ)」をグローバルで展開しています。北京での科学館の運営、シンガポールや台湾で毎年開催されるおもちゃコンテスト「Sony Creative Science Award」の実施の他、日本では2021年、2022年に引き続き、夏休みの期間に合わせて「CurioStepサマーチャレンジ2023」を開催。プログラミングや科学工作のワークショップ、アニメをテーマとしたトークイベント、プログラミング的思考のコンテストなど、ソニーらしい多種多様なコンテンツをソニーグループ全体で提供。子どもたちの興味や関心に合わせて選べる計14種のイベントを行い、約3,500名の子どもたちが参加しました。



CurioStepサマーチャレンジ2023のキービジュアル

また、日本国内では、子どもの教育格差という社会課題解決への貢献を目的とした「感動体験プログラム」を実施しています。NPOなどの外部団体と協働し、主に小学生を対象とした多様なワークショップを提供しています。ソニーは教育格差是正を目指し、社会全体での検討につなげることを目的として、2020年度より第三者組織と連携し、社会的インパクト評価を継続的に実施し、公開しています。また、2023年度は、2021年度よ

り行っている約半年間の児童向けプログラムに加えて、拠点の質的向上を目的とした職員向けの研修をセットにした「長期プログラム」を2拠点で実施しました。社会的インパクト評価では、プログラムの回数を重ねるごとに児童の非認知能力を測るコンピテンシー指標の増加が確認され、意図したプログラム効果が発揮されていることが確認されました。

[☑ CurioStep with Sony \(キュリオステップ\)](#)

[☑ 感動体験プログラム](#)

SMEによる「Beyond the Instrument 2024」

ソニーミュージックグループは世界各地の団体と協力して「Beyond the Instrument」という取り組みを推進しています。この取り組みは、若手音楽家が必要なものを手にすることのできる環境をつくり、音楽界の次世代のリーダーを育成することを目指しています。2023年にはNotes for Notesと共同でWatts-Willowbrook Boys & Girls Clubにレコーディングスタジオを開設しました。このスタジオは、学生たちが年間を通じてオリジナル作品を披露し、音楽の才能を磨くための場となっています。第66回グラミー賞では、授賞式の前にSMG所属アーティストが学生たちと交流し、ジャンルの垣根を越えてアイデアを共有しました。

2024年には、ソニー・ミュージック (UK) が楽器や機材など音楽教育に必要なものをWalker Riverside Academyに寄贈し、この取り組みをさらに推進しています。イングランド北部出身のDJでありプロデューサーとしても活躍するSchakが2月7日にアカデミーを訪問し、「Restore the Music」を通じた機材の寄贈を申し出ました。学生たちは寄贈された機材を活用してDJや楽曲制作、音楽エンジニアのスキルを磨いています。SMGはここまでの4年間で音楽教育と楽器の寄贈に50万ドルを超える額を投じてきました。5年間で全世界1万名の学生を支援することを目指しています。こうした音楽教育のための持続可能な取り組みは、才能を育て、地域社会を活気づけることに対するSMGの姿勢の表れです。

[☑ SMEによる取り組み「Beyond the Instrument」\(英語のみ\)](#)



スタジオでギターを抱えて微笑む子どもたち
— 取り組みではNotes for NotesとSMEが連携

Sony Dream Classroomが夢を持つ次世代の若者を後押し

ソニー・チャイナが2013年に立ち上げた社会貢献活動「Sony Dream Classroom」は、ソニーが掲げるスローガン「For the Next Generation」と連動しながら、SDGsのゴール4「質の高い教育をみんなに」に貢献することを目指しています。Sony Dream Classroomでは、中国国内のさまざまなソニー事業所と連携して、「One Sony」として団結している強みを生かして、多様性に富んだソニーのビジネスがもたらすメリットを最大限に活用しています。ソニーの革新的なテクノロジー製品や魅力的な科学実験、音楽・映画・アニメーションの豊富なコンテンツを通じて、科学的探求やクリエイティブなエンタテインメントに関するソニーの専門知識に広く触れることで、次世代の若者たちに夢を与え、より多様性に富んだ学び方やSTEAM教育コンセプトを実現し、目を見張るような体験と感動を届けています。

2024年3月の時点で、中国国内143都市で290の「Dream Classroom」を実施、3,500名以上の大学生と70,000名以上の小中高生が体験の機会を得ています。ソニー・チャイナはこの取り組みを通じて、中国国内で夢を追い求める人々と協力して感動を呼び起こし、インスピレーションを与えて情熱に火をともしことを目指しています。社会のあらゆる層の注目を集め、持続可能な開発を推進し、質の高い教育を推進するため、ソニー・チャイナは一丸となって取り組んでいます。



2023年9月、雲南省で開催されたSony Dream Classroomの様子

[☑ 「Sony Dream Classroom」\(中国語のみ\)](#)

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

概要

重点領域・活動実績

教育支援

災害・人道支援

グローバル課題への対応

コミュニティ支援

社員の参画

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

災害・人道支援

世界各地で大規模な災害や緊急事態が起きた際に、ソニーグループは人道的観点から、事象の緊急性や地域との関係性に鑑み、支援活動を行っています。

ソニーグループの災害・人道支援

ソニーグループは、2023年度、以下の災害・人道危機に寄付などの支援を行いました。

発生年月	支援対象	寄付先
	金額	
2024年1月	令和6年能登半島地震	日本赤十字社、 セーブ・ザ・チルドレン、他
	約1億3千万円	
2023年10月	アフガニスタン地震	セーブ・ザ・チルドレン
	500万円	
2023年10月	イスラエルおよびガザ地区における人道支援活動	日本赤十字社、 国連児童基金 (UNICEF)、 セーブ・ザ・チルドレン、 国境なき医師団 (MSF)
	約3億1,900万円	
2023年8月	米国ハワイ州マウイ島の山火事	Hawaii Community Foundation's Maui Strong Fund、 American Red Cross
	20万米ドル	
2023年5月	ミャンマーのサイクロン「モカ」	セーブ・ザ・チルドレン
	約2万米ドル	

イスラエルおよびガザ地区における人道支援活動に対する支援

ソニーグループ株式会社は、イスラエルおよびガザ地区で続く衝突により影響を受けている方々への人道的支援のため、日本赤十字社および国連児童基金 (UNICEF) へ合計2百万米ドル (約3億円※) の寄付を実施、加えて、ソニーグループ各社で、マッチングプログラムなどを通じ社員から支援団体への寄付も行いました。

これらの活動によって、ソニー全体としての支援額は累計約3億1,900万円となりました。

※ 2023年10月17日の換算レートによるもの (1米ドル=149.50円)

令和6年能登半島地震における被災地・被災者支援

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の発生に際し、ソニーグループは、被災地への緊急支援として、日本赤十字社、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、およびその他の団体に対し、合計約1.3億円の寄付を行いました。

この中にはソニーグループ各社からの寄付合計約4,700万円に加え、国内外のソニーグループ各社で行われた社員募金約4,100万円とそれに対する会社からのマッチング拠出約4,100万円が含まれます。

また、ソニーグループ各社では寄付の他に、各社のサービスの提供による支援を行いました。

セーブ・ザ・チルドレンとのパートナーシップ

セーブ・ザ・チルドレンとソニーは、自然災害や人道危機の発生直後から中長期での復興期にかけて、次世代を担う子どもたちを支援する「子どものための災害時緊急・復興ファンド」を2016年に設立しました。このファンドの特徴は、一定額以上の資金を常に準備することで、災害発生直後に迅速な支援を開始できること、また、日本国内だけでなく世界各地の災害も支援対象としていることがあげられます。このファンドからの拠出金は、セーブ・ザ・チルドレンの支援活動で活用され、生活用品や衛生用品キットなどの緊急支援物資の提供、子どもが安心・安全に過ごすことができる空間「こどもひろば」の開設・運営、緊急事態における子どものこころのケア「子どものための心理的応急処置 (Psychological First Aid for Children : 子どものためのPFA)」の研修の実施などに生かされています。2024年3月末時点で「子どものための災害時緊急・復興ファンド」を通じ、国内外の災害に累計約2億円を拠出し、セーブ・ザ・チルドレンの支援活動で活用されました。

また、これまでの緊急・復興支援に加え、災害への備えも含めた仕組みづくりを行う重要性を認識し、セーブ・ザ・チルドレンとソニーは、2021年3月に災害に強いレジリエントなコミュニティづくりを共同で推進していくことを発表しました。この新たなパートナーシップの一環として、ソニーは、セーブ・ザ・チルドレンが世界40カ国以上で展開している、子どもたちを学校内外におけるさまざまな危険から保護するための包括的な取り組みである「Safe Schools」プログラムを支援しています。

☑ [子どものための災害時緊急・復興ファンド](#)



2024年能登半島地震緊急子ども支援の様子。避難所でおもちゃや衛生用品が詰まった「緊急子ども用キット」を配布

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

概要

重点領域・活動実績

教育支援

災害・人道支援

グローバル課題への対応

コミュニティ支援

社員の参画

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

グローバル課題への対応

2つのグローバル基金

ソニーグループは、新型コロナウイルス感染症により世界各国で影響を受けている人々を支援するため、2020年4月に、総額1億米ドルの支援ファンド「新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金」を設立しました。また、2020年6月には、「Global Social Justice Fund」を総額1億米ドルで設立し、社会正義および人権保護に取り組んでいる団体への支援や社内外でのダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（以下、DE&I）の推進を世界各地で行っています。

2つのグローバル基金を活用した各種支援は、ソニーグループの多様な社員のアイデアや強い想いによって推進されています。

Global Social Justice Fund

ソニーは基金を通じ、社会正義および人権保護に取り組んでいる団体への支援、社内外のDE&I推進を支援するため、市民の社会参加、刑事司法改革、多様性、教育に取り組む、7つの地域と70カ国における500を超える団体を支援しました。本基金の用途は全て確定しており、2023年度までの累計支出額は約98億円（7,880万米ドル）となりました。

本基金の支援対象分野に関しては、今後も支援金を追加し、活動を継続していく予定です。

[☒ Global Social Justice Fund](#)

新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金

ソニーグループは「新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金」を通じ、「医療」「教育」「クリエイティブコミュニティ」の各領域において、さまざまな支援を継続して実施しました。基金設立からの4年間で、総額1億米ドルの用途は全て確定し、合計5,600を超える団体に支援を行いました。

2023年9月には、基金の残額相当の約1,500万米ドルのパートナーシップをUNICEF（国際連合児童基金）、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）、セーブ・ザ・チルドレンと締結し、2025年までの今後3年間で支援を実施することを決定しました。これらのパートナーシップを通じ、新型コロナウイルス感染症の発生以降に深刻化あるいは顕在化し、現在も継続している社会課題への取り組みを支援します。以上の活動をもって、同基金は終了しますが、今後もグローバルな社会課題に向けた活動をさまざまなパートナーとの連携により継続していきます。

パートナーシップ支援内容

UNICEF:

誰もがデジタル教育を平等に享受できる環境の整備や、心の健康を支援するためのアドボカシー活動を通じた予防やケアの推進・強化、保健や教育などの分野における支援制度の統合・拡大などによる、世界各地の子どもや若者への教育支援や就業スキルの習得、メンタルヘルス向上に向けた取り組み

UNHCR:

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた、バングラデシュおよび南部アフリカ地域における難民・避難民とその受け入れコミュニティの復興支援ならびに、今後の感染症対策のための保健・衛生活動支援

セーブ・ザ・チルドレン:

日本国内で経済的に困難な状況にある家庭への「子ども給付金」の支給を通じた子どもの貧困問題解決や、バングラデシュおよびモザンビークにおける子どもや青少年の保護・レジリエンス向上などの支援活動

[☒ 新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金](#)

森林再生活動への Synecoculture™ 活用を目指したパイロット事業の開始

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）、WWFインドネシア、ソニーグループ株式会社（SGC）、株式会社SynecOIは、人の手による植栽の管理が難しいインドネシア・スマトラ島の森林再生地に、生態系が持つ自己組織化機能を活用する農法であるSynecoculture™（シネコカルチャー）を導入し、森林再生活動への有効性を検証するパイロット事業を開始しました。

WWFジャパンとSGCは2021年4月から、気候変動および森林保全を通じた生物多様性保全の領域における、3年間のWWFコーポレート・パートナーシップ契約を締結し、健全な地球環境の実現に向けた協働を促進しています。今後、さらなる連携を進め、生物多様性およびネイチャーポジティブに向けてWWFインドネシアが森林保全プロジェクトを進めている極めて重要な森林地域に、SynecOIが普及に取り組んでいるSynecocultureを導入する予定です。地元コミュニティとも協働しながら、2024年末までの約1年間でSynecocultureによる生態系への効果を測定し、活動を通じて長期的に森林周辺のコミュニティに貢献するとともに、多世代にわたって活用される森林の存続と、生物多様性の保全の両立を目指します。

※ Synecocultureはソニーグループ株式会社の商標です。

[☒ スマトラ島における森林再生活動へのSynecoculture™の活用を目指したパイロット事業を開始](#)



インドネシア・スマトラ島における森林再生活動地の調査の様子

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

概要

重点領域・活動実績

教育支援

災害・人道支援

グローバル課題への対応

コミュニティ支援

社員の参画

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

コミュニティ支援

アーロイの森プロジェクト

ソニー・インタラクティブエンタテインメント (SIE) は、「アーロイの森プロジェクト」を通じて、生物多様性を守る取り組みを続けています。Guerrillaの『Horizon Forbidden West』が発売されて以来、SIEとGuerrillaは世界各地で森林再生プロジェクトを支援してきました。この取り組みは、ゲーム業界とともに100万本の植樹を行うという目標を掲げた「UN Playing for the Planet Alliance」に対するSIEのコミットメントの一環です。2023年には、PlayStationコミュニティおよび複数のパートナーと協力して取り組み、世界各地に60万本以上の木が植えられました。これまでに推定1,800エーカー（約7平方キロメートル）の原生地と野生生物の生息地の再生に貢献しました。



『Horizon Forbidden West』 - アーロイの森

2024年、SIEはArbor Day Foundationと世界自然保護基金 (WWF) と協力し、戦略的な森林再生および生息地保全プロジェクトを後援することによる「アーロイの森」のさらなる拡大を発表しました。Arbor Day Foundationとのパートナーシップでは、ルワンダとマダガスカルで最も必要とされている森林生態系を再生するため、合計5万本の植樹を支援します。また、WWFでは、SIEの寄付がインドネシア・スマトラ島の平地林を

管理する取り組みと、アフリカの国境地帯ウンガニシャ (Unganisha) 地域での保全活動に役立てられます。

- [PlayStationコミュニティとともに自然と生物多様性を守る取り組み](#)
- [Playing for the Planet Alliance](#)

太陽光発電設備「そらべあ発電所」の寄贈

ソニー損害保険 (以下、ソニー損保) では、2009年から約15年にわたって、「幼稚園にソーラー発電所を☆プログラム」を運営しています。これは顧客が、ソニー損保の自動車保険を契約する時に年間走行距離を確認する仕組みを活用したプログラムです。実際の走行距離が契約時の予想より短かった場合、その分、車の運転によるCO₂排出量が減り環境保全に貢献したことになり、このご契約者の環境への貢献をさらに大きくできるよう、走らなかった距離の総計をもとに定めた額を、再生可能エネルギーの普及活動や環境教育を行うNPO法人「そらべあ基金」に寄付しています。そらべあ基金では、活動に賛同する企業・個人からの寄付をもとに太陽光発電設備「そらべあ発電所」を全国の幼稚園や保育園などに寄贈する「そらべあスマイルプロジェクト」を展開しており、ソニー損保が同プロジェクトを通じて寄贈した「そらべあ発電所」は、2023年度に宮城県、群馬県、熊本県の3園に寄贈が決まった3基を含め、累計37基となりました。

※ ソニー生命保険でも、「ご契約のしおり・約款」について、冊子版に加えてCD-ROM版 (2020年廃止) やWeb版を導入、これらを希望された顧客の数に応じてそらべあ基金へ寄付、「そらべあスマイルプロジェクト」を通じて「そらべあ発電所」を寄贈しています。

[幼稚園にソーラー発電所を☆プログラム](#)



そらべあ発電所寄贈記念式典 (群馬県にしのもりこども園にて)

財団の取り組み

ソニー教育財団は、次世代を担う子どもたちと教育・保育の現場を支援しています。2023年度、「教育助成論文」には小・中学校、幼稚園・保育所などから230件以上の応募があり、助成金やソニー製品などを贈呈。また、教育改革に取り組むリーダー育成を目的とした教員対象の「ミライティチャーアカデミー」トップリーダーコースを新たに開講。保育者・教員のための会員組織「科学する心」ネットワークの登録者数も1,000名を超えました。子どもの科学への興味を深める「ソニーものづくり教室」は全国で50回以上開催し、1,200名以上の児童・生徒が参加しました。

公益財団法人ソニー音楽財団は、子どもたちへの良質な音楽の提供、誰もが気軽にクラシックを楽しめる環境づくり、若いアーティストの育成・支援、子どもへの音楽を通じた教育活動に対する助成、の4つを軸とした活動を行っています。2023年度は、若いアーティストの支援事業として5年ぶりとなる「第13回 国際オーボエコンクール」を開催、28の国と地域から過去最多となる応募者が腕を競いました。その他「日赤チャリティ・コンサート」「That'sクラシック!」「Concert for KIDS」などのコンサートや助成・顕彰など、クラシック音楽を通じた社会貢献活動を行いました。

Sony Foundation Australia (SFA) はオーストラリア国内のソニーグループ各社が一体となって、社会的インパクトの創出を目指した活動を行っています。取り組みのひとつである「You Can」は、若者のがん医療改善を目指しています。2023年度の「You Can Stay」プログラムでは、地方に住む若年層のがん患者153名とその家族が都市でのがん治療に臨む際に無料で宿泊できるよう、8,477泊分にあたる約140万豪ドルを寄付。また、「SFA Children's Holiday Camp Program」に約48万豪ドルを寄付し、障がいのある子どもたち560名の保護者が休息をとれるよう、無料の預かりサービスを提供。全土に30カ所あるキャンプのひとつでは、障がいのある子どもたちのケアができるよう、学生のボランティア1,070名が延べ2万5,680時間を超える研修を受けています。これにより、DE&Iの実現に向けた強力な基盤が築かれました。

- [公益財団法人 ソニー教育財団 \(日本\)](#)
- [公益財団法人 ソニー音楽財団 \(日本\)](#)
- [Sony Foundation Australia \(オーストラリア\) \(英語のみ\)](#)

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

概要

重点領域・活動実績

教育支援

災害・人道支援

グローバル課題への対応

コミュニティ支援

社員の参画

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

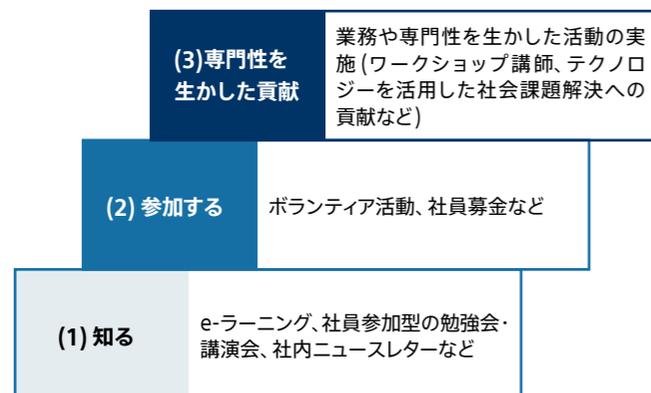
社員の参画

社会貢献活動への社員の参画

ソニーでは、社会貢献活動を推進していく上で社員がさまざまな形でかわっていきけるよう、(1)知る、(2)参加する、(3)専門性を生かした貢献の3つのアプローチで機会を提供しています。

それぞれのアプローチに対するプログラムとして、(1)知るではe-ラーニング、社員参加型の勉強会・講演会、社内ニュースレターを提供しています。(2)参加するでは、募金活動などへの協力や活動への参加として、緊急災害・人道支援募金、ボランティア、地域清掃活動・植林活動への参加機会を提供しています。(3)専門性を生かした貢献では、教育プログラムにおいて、ワークショップでの講師やスタッフ、キャリア教育授業での講師の機会を提供しています。また、ソニーのテクノロジーを活用した社会課題の解決への貢献などに取り組んでいます。

社員参画のアプローチと取組み事例



ボランティア休暇や休職制度

ソニーグループ株式会社では、社員のボランティア活動を支援するため、積立休暇(ボランティア活動)、ボランティア休職などの制度があります。教育支援や災害支援活動に社員がボランティアとして参加しています。

ボランティアの取り組み

ソニーでは、2023年度に、日本フィランソロピー協会と協働で、ボランティアマッチングサイト「ソニーグループ専用ボランティアウェブ」の運営を開始しました。社員は、専用ウェブサイトから、全国の主要都市で実施されるさまざまな分野のボランティアプログラムを選び、直接申し込みができるしくみとなっています。2023年度は年間274件の参加申し込みがありました。今後も社員のボランティア参画を推進しています。

社員募金の取り組み

緊急の災害・人道支援時の社員募金に関して、社員からの寄付金に会社から同額を加えて寄付をするマッチングギフトプログラムを実施しています。2023年度では、2023年11月にイスラエルおよびガザ地区で影響を受けている方々への人道的支援のため、また2024年1月に令和6年能登半島地震における被災地・被災者支援のため、国内ソニーグループ各社において社員募金を実施、会社からマッチング拠出も行いました。

SCA、SMG、SPE、SIE、SELでは、年間を通じて寄付プラットフォームを提供しています。各社員はいつでも寄付を行うことができ、各社で設定する条件に基づき会社からのマッチング拠出が行われます。

社会課題体験型視察プログラム

ソニーグループは、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンおよびソニー・インドと連携のもと、ソニーグループ社員の社会課題への理解促進を目的とした「社会課題体験型視察プログラム」を2023年4月に6日間、インドのデリー、パトナで行いました。本プログラムには、国内のソニーグループ各社を対象に参加者を募集し、多様な事業、職種、バックグラウンドを有す8名の社員が参加しました。現地では、セーブ・ザ・チルドレンやソニー・インドがCSR活動の一環として取り組みを行う事業地の訪問や関係者との議論を通じて、社会課題の構造的な要因を分析し、社会課題への理解を深めました。参加者はプログラムを通じて得られた知見をもとに、プログラム終了後も有志で活動を続け、ソニーのテクノロジーを活用した社会課題解決に向けて継続的に取り組みを行っています。



デリーの小学校で子どもと教員から、災害対策のプレゼンテーションを受けている様子

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

概要

重点領域・活動実績

教育支援

災害・人道支援

グローバル課題への対応

コミュニティ支援

社員の参画

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報